

第 35 回高柳賞贈呈式が 2021 年 12 月 18 日ホテルクラウンパレス浜松において挙
行されました。



令和三年度

第35回 高柳賞贈呈式

於 ホテルクラウンパレス浜松

2021.12.18

令和 3 年度(第三十五回)高柳記念賞、高柳研究奨励賞受賞者が下記の方に決定しました。

受賞者

■高柳記念賞

氏名 脇谷尚樹

所属 静岡大学電子工学研究所

職 教授

研究課題：ダイナミックオーロラ PLD 装置の開発とこれを用いた新材料創成
に関する研究

■高柳研究奨励賞

① 氏名 青山真大

所属 静岡大学大学院工学領域

職 助教

研究課題：高調波磁束を利用した受動可変界磁モータに関する研究

② 氏名 橋本二三生

所属 浜松ホトニクス（株）中央研究所

職 研究員

研究課題：[深層学習技術を利用した医用画像処理の研究開発](#)

③ 氏名 藤井朋之

所属 静岡大学大学院工学領域

職 准教授

研究課題：[パルス通電加圧焼結の緻密化プロセスの解明と新奇生体材料の創製](#)

④ 氏名 堀 匡寛

所属 静岡大学電子工学研究所

職 准教授

研究課題：[シリコン・トランジスタにおける磁気共鳴下のチャージポンピングに関する研究](#)

静岡新聞



高柳記念賞の表彰を受ける静岡大電子工学研究所の
脇谷教授（右）＝浜松市中区

電子科学分野の優れた研究を表彰する浜松電子工学奨励会（浜松市中区）はこのほど、高柳賞の贈呈式を同区で開いた。最高の高柳記念賞には、静岡大電子工学研究所の脇谷教授が選ばれた。

脇谷教授に高柳記念賞

浜松電子科学研究で功績

谷尚樹教授が選ばれた。脇谷教授は紫外線のバルスレーザを照射して薄膜を作る成膜法で、電磁石を利用した新装置を世界に先駆け開発した。さまざま

めたい」とあいさつした。授賞式は静岡大学の青山真大助教と藤井朋之准教授、同大電子工学研究所の堀匡寛准教授、浜松ホトニクス

な薄膜を作製でき、脇谷教授は「ただの物質を、機能を持った材料に作り替えられれば、日本は資源大国になれる。研究をさらに進めたい」とあいさつした。授賞式は静岡大学の青山真大助教と藤井朋之准教授、同大電子工学研究所の堀匡寛准教授、浜松ホトニクス

による映像受信は世界で初めて成功し、「日本のテレビの父」と呼ばれた浜松市出身の高柳健次郎氏（1899～1990年）の功績をたたえて創設した。85年度から表彰を始め、受賞者は延べ186人になった。（浜松総局・杉山諭）

高柳賞に静大・脇谷教授

贈呈式 自然界にない材料 研究

電子科学の分野で顕著な業績を上げた研究者を表彰する「高柳賞」の贈呈式が十八日、浜松市中区のホテルクラウンパレス浜松であ

り、記念賞を受賞した静岡大電子工学研究所の脇谷尚樹教授(五十)に二百万円が贈られた。世界で初めてブラウン管



贈呈式で自身の研究を紹介する静岡大の脇谷尚樹教授。浜松市中区で

テレビに「イ」の字を映し出し、「テレビの父」と呼ばれる高柳健次郎(一八九九―一九九〇年)の功績を記念し、浜松電子工学奨励会が八五年度から贈呈しており、三十五回目。同会の福田安生理事長が賞状を手渡した。

脇谷教授は人工的に「オロフ」を発生させる装置を使ってさまざまな物質の特性を変化させ、自然界には存在しない材料をつくる研究が評価された。あいさつで「何でもない物質を、機能を持った材料に作り替えることができれば、日本は資源大国になれる」と将来像を語った。

静岡大の藤井朋之准教授、堀匡寛准教授、青山真大助教、浜松ホトニクスの橋本二三生研究員には研究奨励賞として、各五十万円が贈られた。

(高橋雅人)